

第3回別海町自治推進委員会 概要

開催日時：平成27年1月28日（水）午後2時30分～午後3時30分

開催場所：別海町役場 2階 庁議室

出席人数：9名（欠席5名）

<会議次第>

1 開 会（司会 総合政策課長）

2 議 事

議題1 別海町自治基本条例運用状況に関する意見（意見書）について

議題2 協働のまちづくりの方策について

3 閉 会

～議事の概要～

前回の会議にて話し合われたとおり町長と直接対話する機会を設け、議題1では平成25年12月18日付で提出した「自治基本条例運用状況に関する意見書」について町長から回答をいただき、懇談を行った。

また、議題2では委員からの「協働のまちづくり」に関する提言を踏まえ、意見を交換した。

（内容要旨）

町長

- ・提出された意見については、情報共有等に関して一定の進捗評価をいただいている一方で、活用が未だ不十分な部分もあります。総合政策課を通じて各所管部署で共有し、業務にあたるよう指示しているところです。

委員長

- ・現在、各所管部署で共有し業務にあたっているとのことであるが、何かご質問やご意見はあるか。

委員

- ・自治基本条例の第11条に沿って考えれば、回答は迅速にさせていただきたい。町政ご意見箱等では1週間以内に回答することになっている。直接、町長から回答をいただかなくとも、事務局を通じて発表していただければ十分ではないか。

町長

- ・一般の皆さんへの回答は条例に基づくよう努めていますが、諮問機関や委員会からの意見書に対しては、このような場で回答を差し上げるのが適切であると考えております。時期が遅れたという点に関しましては、改善するようにいたします。

委員

- ・意見書の中で、行政評価制度の早期整備について言及しているが、取組みはされているのか。

事務局

- ・パブリックコメントなどで部分的に導入しております。確立された制度としては、構築の途上です。

委員

- ・自治基本条例の第37条第2項では、行政評価などを踏まえた予算編成をするとあるので、行政評価制度は行政執行の根幹に係ることではないか。

町長

- ・行政評価は間違いなく必要なものです。そして予算編成にあたっては毎年、事業の精査を行っております。その際、1年では成果が出ないものや努力次第では成果が上がるものが存在し、3年や5年で見直しをしていますので、そのことを制度の中でどのようにしていくのか、もう少し時間をいただくところがあります。町民の皆さんの意見も踏まえて、制度として柔軟性のあるものを目指しているところです。

委員

- ・「町長と話そう」（まちづくり懇談会）という取組みも行政評価制度の一つだと思うが、町民の出席者数は多いとは言えない。参加するきっかけを導いて対話できる形を考えたほうが良いと思う。お互いの意識を変えて、接点を作っていくか。

委員長

- ・以前の会議でも、まちづくり懇談会に出席したが、行政の人達がひな壇に並んでいて意見を出すような雰囲気ではない、という指摘があった。形を変える工夫が必要では。

町長

- ・協働のまちづくりの意識や考え方を、町職員だけでなく町民の皆さんにもいかに浸透させ、参画に繋げていくのが大切だと考えております。時間はかかるでしょうが、積極的に取り組みます。

委員長

- ・議題2「協働のまちづくりの方策について」に関して意見はあるか。

委員

- ・前回「別海町の夢」を語るということだったので「2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化イベントに参加する」という夢を考えてきた。例えば野付半島、打瀬舟、食の特産品、自然環境等を活かした計画を立てて、別海町も東京オリンピックの文化事業に参加表明してみてもどうか。
- ・国内向けのものは既に取り組んでいるが、国外向けで考えると面白いものができると思う。ただ、宿泊施設の不足という課題がある。お金はかかるけれども、郊楽苑を拡充してみてもどうか。
- ・ライフスタイルに合わせた、選べる宿泊メニューがあると良いと思う。

町長

- ・東京オリンピック開催時には当然、北海道にも外国人観光客は訪れるでしょうから、対応は今から考えたほうが良いと思っております。

委員

- ・パイロットマラソンの参加者についても、別海町に宿泊できるように考えたほうが良いと思う。とても温かいマラソン大会で、ランナーの人達に1度は参加したい憧れがあると聞いた。以前は民泊が盛んだったが、現在はそのような案内をしていない。多くの人が釧路や中標津に宿泊している状況なので、町民との交流方法も踏まえて改善していくべきでは。
- ・農家の民泊、民宿については特区として申請しやすい。方法を探れば必ずあると思う。

- ・キャンプ場、飲食店を利用してもらってはどうか。自転車レースを道東でやりたいという話も聞いたことがあり、宿泊のスタイルが選べるような、楽しめる形が良いのでは。

事務局

- ・民泊が定着してきて、自然に泊まりに来るようになった事例も多々あるのではないかと思います。

委員

- ・今の応援の様子を見ていると声援が少ない。民泊による繋がりで応援、声援もより温かくなると思う。
- ・歓迎ムードで盛り上げれば、何かの拍子で違う形の、極端に言えば将来の移住にも繋がるのでは。

委員長

- ・他に全体を通しての意見はあるか。

委員

- ・「協働のまちづくり」に関して、町長にお願いしたいことがある。挨拶などで「協働のまちづくりでやっていきましょう」という旨を聞くが、具体的なものがない。
例えば高齢者の運動会は社会福祉協議会やボランティアの方が係っており、協働の形で運営されているので、そこに「この在り方が協働のまちづくりなんですよ」と一言あれば、皆が納得すると思う。
また、町職員でも本当に意識している人は少ないだろうし、意欲的な人がいても部署異動によって活動の雰囲気下がってしまったこともある。自分たち自身が行動し、言葉だけが一人歩きしないようにするためにも、具体性のあるものとして町民に訴えて欲しい。

町長

- ・「協働のまちづくり」と改めて言葉にしていますが、今までずっと継続して実行してきています。最近では、町が主導で町民や地域にお願いする例が多くなってきていますが、それでは町行政がやって欲しいことと、町民がやって欲しいことが必ずしも一致しないので、住民の皆さんから見ると無駄なことをやっている、ということになってしまいます。
なので、あくまでもサークルや団体などが主体的に考えて、自分たちができることをやって、できない部分については町と一緒にやっていくというものだと思っています。財政状況もあるので難しい部分もありますが、町として積極的に一緒にやっという姿勢と、住民の皆さんが主体的にやっという意識が大切だと考えております。

委員

- ・これから高齢化社会になり、行政から退職された方や漁業農家の方が居る中で元気に過ごしてもらうためにも、例えば学校給食の野菜を作ってもらうとか、そういうことも協働に繋がると思う。どのように元気に居てもらおうかを考えると、やることを作るのが大切だと思う。

委員長

- ・色々な意見が出てお互いに交流できたかと思います。別海町の発展にこれからもご協力をお願いして閉会といたします。2年間ありがとうございました。

町長

- ・自治推進委員会の皆さんには2年間に渡り、日頃の活動を活かしたご意見やご指摘をしていただき、心から厚く御礼申し上げます。「協働のまちづくり」は町行政を進める上での柱で

すので、今後いかに町民の皆さんに広く理解していただくか、そこにかかっていると思います。地方創生については町民全体で、産業分野を超えて皆さんの知恵と工夫、そして取り組みが必要になって参りますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。本当に2年間ありがとうございました。